

## 展示紹介

### 特別展「かがやきにこめた権威と荘厳 —金と銀の考古学—」

平成 21 年 10 月 10 日（土）～11 月 23 日（月・祝）

金と銀の輝きは古代から人々を魅了し続けています。特に金はその輝きと希少性に加え、耐錆性に優れ、展性に富むことから貨幣や装飾品に利用されてきました。わが国は、弥生時代に金と銀に出会い、古墳時代には金と銀を用いた装身具や武具とともに加工技術が伝わり、次第に地方権力者にまで金と銀の魅力は浸透していきました。また、平安時代には貴族により光り輝く経筒や仏像が未来に向けて埋納されました。この世から来世に伝える荘重な世界を感じることもできます。さらに、中世・近世には鉱山の開発による産出量の増加と金工技術の発展により、より多くの金・銀を用いた場面が登場しました。屋根を飾る金箔の荘厳はその代表的なものです。

本展は、各地の古墳や城跡から出土した金・銀で装飾された考古資料をもとに、権力者である被葬者の姿や中央権力との関係などを探るとともに、人々を引きつける金・銀の魅力を紹介しようとするものです。

#### みどころ

##### 1 金銀のきらめき

金・銀を用いた装身具の多くは、1000 年以上もの間古墳や遺跡に埋まっていたにもかかわらず、緑青の間からのぞかせる金色や、燻し銀のような黒い輝きは当時のきらびやかさを彷彿とさせます。



こんどうせいゆびわ  
金銅製指輪

埼玉県牛塚古墳出土  
川越市立博物館



きんせいすいしよくつきみみかざり  
金製垂飾付耳飾

滋賀県鴨稻荷山古墳出土  
東京国立博物館

##### 2 いにしへの匠の技

古墳時代は技術革新の時代でもありました。朝鮮半島や中国からもたらされた金属製品は、それらを作り出す技術もいっしょに伝わりました。考古資料で輸入品か国産品かを区別するのは大変困難ですが、いずれにしても 1000 年以上前の職人の精緻な技には敬服させられます。



きんせいすいしよくつきみかざり  
金製垂飾付耳飾 (部分)

兵庫県西宮山古墳出土  
京都国立博物館

重文 ぎんぞうがんでんとうたちつかがしら  
銀象嵌円頭大刀柄頭

群馬県平井地区1号墳出土  
藤岡市教育委員会



### 3 権力の象徴

いつの時代でも、富と権力は切っても切れないもので、金・銀をこよなく愛した権力者たちは、その財力に物をいわせて、豪華な装身具や建築物、そして、仏具に金・銀を用いました。



重文 じゅうにそんれんざせんぶつ  
黒漆塗り金箔貼り十二尊蓮座塼仏

山田寺跡出土  
奈良文化財研究所



国宝 藤原道長経筒  
奈良県金峯山経塚・金峯神社

### 4 国宝のかがやき

藤ノ木古墳は発掘調査による発見以来、考古学的資料としても、美術工芸品としても高い評価を受けています。製作技術の高さ、副葬品としても類をみない豊富さなど、計り知れない価値を持っています。今回その一部を展示できることになりました。その眩いかがやきを堪能して下さい。



こんどうせいほうつきかざりかなぐ  
金銅製歩揺付飾金具

藤ノ木古墳出土

文化庁・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館



こんどうせいえんけいかざりかなぐ  
金銅製円形飾金具

## 5 金・銀の魅力

きらめく宝石や貴金属を魅了するのは権力者だけではありません。金・銀は古くから重用され、その輝きや性質に人々は憧れました。今でも、金・銀は人々を魅了し続けています。なぜ、金・銀は人々を引きつけるのでしょうか？この謎に挑戦してみてください。

### 関連行事

#### ◇講演会「金銀の財宝をまとった茨城の豪族たち」

日時：平成21年10月25日（日）午後1時30分より

会場：当館 講堂 \*要入館券

講師：大塚 初重氏（明治大学名誉教授）

定員：先着200名

#### ◇講座「輝ける鈴を愛する日本人」

日時：平成21年11月8日（日） 午後1時30分より

会場：当館 講堂 \*要入館券

講師：田中 裕氏（茨城大学准教授）

定員：先着200名

#### ◇展示解説・ミニ講座

日時：平成21年10月24日（土）・10月31日（土）・11月1日（日）

午前の部11時より 午後の部2時より

会場：当館 講堂 \*要入館券

担当：茨城県立歴史館 学芸課 首席研究員 長谷川 聡